

子宮頸がん予防 Q&A

Q1. 性交渉を経験したら、ワクチン接種は意味がない？

A. HPVにはたくさんの種類があります。性交渉の経験があっても、ワクチンで予防できる未感染の HPV に対する予防効果が期待できます。ただし、すでに感染している HPV をワクチンで排除することはできません。だから感染前にワクチンで予防することが大切なんです。

Q2. ワクチン接種に必要な接種券も母子健康手帳も実家。実家に帰った時にしか接種できない？

A. ワクチン接種は、住民票のある市区町村で接種するのが原則ですが、事前の手続きをすれば、現在住んでいる（住民票と異なる）市区町村でキャッチアップ接種ができる場合があります。希望される人は、事前に住民票のある市区町村の予防接種窓口へ相談してください。

Q3. 子宮頸がん検診は、性交渉の経験がない人は受けなくていい？

A. 性交渉の経験がない人は、子宮頸がんになる可能性はかなり低いといえます。ただし子宮頸がん以外にも子宮や卵巣に関わる病気もあるため、気になる症状があれば性交渉の経験にかかわらず、産婦人科受診をおすすめします。

Q4. ワクチンと検診、どちらかを受ければ予防できる？

A. HPVにはたくさんの種類があり、ワクチン接種ですべての HPV 感染を予防できるわけではありません。一方で、検診では見つかりにくい子宮頸がんがあります。予防には、HPV ワクチンの接種と子宮頸がん検診のどちらも大切です。

Q5. HPVは男性には関係ない？

A. 男性が子宮頸がんになることはありませんが、HPVには男性も感染する可能性があります。肛門がんや尖圭コンジローマなどの病気の主な原因も HPV です。

今だからできることがある
今からはじめる

子宮頸がん予防

What you can do to prevent cervical cancer

子宮頸がんは、女性の命と未来にかかわる病気。
子宮頸がんには、予防方法があります。
「HPV ワクチン接種」と「子宮頸がん検診」について、
女性も、男性も一緒に考えましょう。

監修 一般社団法人 国立大学保健管理施設協議会

もっと知りたい 子宮頸がん予防

子宮頸がん予防に関する詳しい情報はこちらへ

<https://www.shikyukeigan-yobo.jp/youth/>



 **MSD製薬**
INVENTING FOR LIFE

今だからこそ知っておきたい 子宮頸がんってどんな病気？

● 子宮頸がんの主な原因は、HPV(ヒトパピローマウイルス)

- HPVは男性にも女性にも感染するとてもありふれたウイルス
- 海外の報告では、異性との性経験のある女性の84.6%、男性の91.3%が一生に一度はHPVに感染すると推計されています※1
- 男性にも関係する肛門がんや尖圭コンジローマなどの病気の主な原因もHPV

● だれでも、子宮頸がんになる可能性がある

- HPVは、主に性交渉によって感染します。その多くは、自然に身体から排除されます※2
- 排除されずに残ったウイルスの感染が長く続いた場合に、がんに進行することがあります※2

● 若い女性も気をつけたいがん

- 日本では、毎年約10,000人の女性が子宮頸がんと診断され※3、年間約3,000人の女性が亡くなっています※4
- 子宮頸がんになる女性の約16%が20～30代、上皮内がん*を含めた子宮頸がんだと約38%が20～30代※3

*上皮内がん
がん細胞が臓器の表面をおおっている上皮にとどまって、その下の組織に広がっていないがんのことです。子宮頸部にできた上皮内がんの場合、自然に治癒することもあります。進行して内部組織に広がると子宮頸がんになります。検診で見つげることができると、早期の治療(円錐切除術など)で子宮頸がんへの進行を予防することができます。
参考：日本婦人科腫瘍学会・患者さんとご家族のための「子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドライン第3版(2023年)」

● 子宮頸がんは、妊娠、出産にもかかわる病気

- 妊娠・出産を控えた世代の女性や子育て世代の女性の発症が多いことから、“マザーキラー”ともいわれます
- 早期発見で命や子宮が守られる可能性は高いものの、早産のリスクがあります※4
- がんが進行すると、妊娠や出産に影響を及ぼすだけでなく、命にかかわります

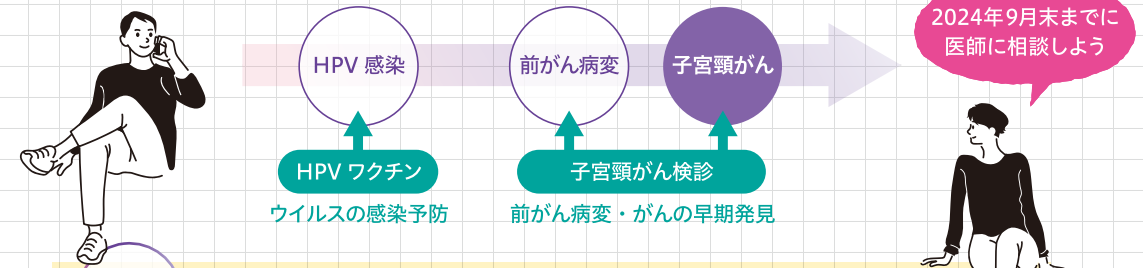
子宮頸がんの予防は、本人だけの問題ではありません。
大切な人の未来を守る子宮頸がん予防—HPVワクチン接種と子宮頸がん検診—について、
家族やパートナーと一緒に考えましょう。

※1) Chesson HW, et al. Sex Transm Dis. 2014; 41(11):660-4.
※2) 笹川寿之 臨床と微生物 2009;36(1):55-62
※3) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)全国がん罹患データ(2016～2019年)
※4) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)全国がん死亡データ(1958～2022年)
※5) Kyriogiou M et al. Lancet. 2006; 367: 489-498.

2つの子宮頸がん予防

子宮頸がんの予防は、原因となるウイルスへの感染を防ぐ予防接種と、がん細胞やがんになる可能性がある細胞(前がん病変)を発見するための検診があります。

HPV(ヒトパピローマウイルス)にはたくさんの種類があり、子宮頸がんを予防するためにはHPVワクチン接種と検診の2つが大切です。



1 HPVワクチンのキャッチアップ接種

HPVワクチンを公費(原則自己負担なし)で受けられるのは、小学校6年生から高校1年生相当の女の子です。対象年齢の時に接種の機会を逃した方のキャッチアップ接種は、今年度(2025年3月31日)で終了となります。

2024年度のHPVワクチン公費助成の対象年齢

2024年度に以下の年齢になる方が定期接種・キャッチアップ接種の対象となり、公費(原則自己負担なし)で接種できます。

定期接種対象者	キャッチアップ接種対象者
小学校6年生～ 高校1年生相当の女子	平成9年度～平成19年度生まれの女性
2008年4月2日～2013年4月1日生まれ 標準的な接種時期は中学校1年生	1997年4月2日～2008年4月1日生まれ かつ、過去にHPVワクチンの合計3回の接種を完了していない方

高校1年生相当の女子、キャッチアップ接種対象者(赤枠)は、標準的な接種間隔で公費での3回接種を完了するためには、**2024年9月末までに医師にご相談ください。***

※6) HPVワクチンの標準的な接種間隔の場合、接種完了※7までに6か月かかります。
※7) 接種時の年齢やワクチンの種類により、2回もしくは3回の接種が必要です。

接種方法 具体的な接種方法は、住民票のある市区町村からのお知らせをご確認ください。過去に受けた接種回数や時期により、接種方法が異なる場合があります。できるだけ母子健康手帳を確認・持参して、市区町村や医療機関に相談してください。

2 子宮頸がん検診

ほとんどの市町村では、20歳を過ぎたら2年に1回、公費で子宮頸がん検診が受けられます。 **対象** 20歳以上の女性

産婦人科



※HPVワクチン接種や子宮頸がん検診の公費助成制度については、住民票のある市区町村にお問い合わせください。
※ワクチンと検診で子宮頸がんを100%予防できるわけではありません。